

アベノミクスの評価とスガノミクスの展望 ーフィナンシャル・タイムズ東京支局長に聴くー

2020年10月9日

講師：ロビン・ハーディング

フィナンシャル・タイムズ紙 東京支局長



経済広報センターは10月9日、英フィナンシャル・タイムズ（FT）東京支局長のロビン・ハーディング氏を招き、「アベノミクスからスガノミクスへ～FT東京支局長が語る日本経済」と題するオンライン会合を開催した。会員企業などから約50名が参加した。

2015年から東京支局長を務めるハーディング氏は、アベノミクスについて、為替や雇用等の実績、TPPやコーポレートガバナンス等の構造改革の面で成果を上げたとしながらも、物価目標2%超を達成できなかったため成功とはいえないと評価した。

ハーディング氏は菅政権に対し、有事に利下げで対応する余地をつくるためにもアベノミクスが掲げた物価目標の維持が必要としたうえで、個人や企業の貯蓄を消費に回すためのマクロ経済の考えに沿った大規模な経済政策を求めた。また、他国による為替操作に関する報告を定期的に行い、過度な円高を望んでいないというシグナルを出すことを提案した。

足元の菅政権の政策のうち携帯電話料金の値下げについては、3社を4社にして競争させる方がよいとし、デジタル改革については、省庁をつくるだけではなくスキル向上のための環境整備が重要と指摘した。

ベーシックインカムを導入可能性については、税負担を増やすものとして否定的な見解を示したうえで、若者のチャレンジを促すにはアベノミクスのような「強い経済」で雇用を増やすことが王道であると述べた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<http://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。